



第 11 号

いせさき美尋

景観サポーター情報誌

トピックス

伊勢崎市景観サポーターの活動に 群馬県は「まちづくり功労者知事表彰」

平成30年7月に群馬会館で開催された「まちづくりシンポジウム」で我々景観サポーターの活動に対し感謝状が授与されました。

この感謝状は魅力あるまちづくりの推進に顕著な功績のあった個人・団体・市町村に贈呈されるものです。

景観サポーター実行委員会は結成から10年の間、景観まちづくり講演会やまちあるき等により市民の景観意識向上に尽力したことによる表彰でした。

今後もこの榮譽に恥じない活動を続けていきたいと思ひます。



活動報告 - 1 景観作品展

今年も市民からの応募による景観作品展が内容も更に充実し開催されました。

平成30年9月26日(水)～10月9日(水)「伊勢崎駅前インフォメーション」及び、10月15日(月)～10月19日(金)までは「市役所の市民ホール」にて、更に今年は、11月9日(金)～11月11日(日)まで初めて新たにオープンした「境赤レンガ倉庫」での3ヶ所で開催され延べ500人以上の来場者がありました。



今回は、特に市民の積極的な参加を目標にポスターの作成、配布等による事前PR活動や学校、公民館、関係諸団体への積極的な働きかけを行い昨年を大幅

に上回る多数の応募を頂きました。又、内容的にも今年は「これぞ伊勢崎！」と云うテーマを設定し身近な素晴らしい作品を多数展示することができました。

更に、初の試みのイベント(オカリナ演奏会)の企画が貢献し当日だけでも会場に入りきれない程の来場者で大盛況となりました。



景観サポーターとして今年は、特に準備段階から昨年までの経験と反省を元に積極的に計画を練って全員で協力して推進した事が大きな成果になったのではと実感しています。又、これらの活動により市民の方に少しでも景観サポーター活動の認知度向上に寄与してもらえればと思っています。

今後とも今回実施したアンケートの貴重な意見や要望等も参考にさせて頂きながら今後とも市民参加型の景観意識向上の住みよい町づくりを目指して活動していければ良いと思います。

(秋山)

■ 作品の応募点数 絵画 2 点、写真 9 4 点

■ 各会場のご来場者数

開催日	会場	来場者数
9月26日～10月10日	伊勢崎駅前 インフォメーションセンター	194人
10月15日～19日	市役所東館1階市民ホール	118人
11月9日～11日	境赤レンガ倉庫	175人

■ ご来場者の感想 (アンケートからの抜粋)

- ▶市域MAPに展示作品の場所がわかるようにしたらいいと思いました。継続して開催して欲しい。
- ▶またやってほしい 今度は私も出品したい!
- ▶絵画が思ったより少ないですね
- ▶どの写真もととてもキレイでした
- ▶サイズの大きいものもあれば、なお良いと思う。
- ▶皆良かったです。始めて見学させていただきました。本当に良かったです。
- ▶皆様の思いの込められた作品の数々、ありがとうございます。季節の移り変わり、時間の変化、輝く花の色、新緑のいぶき、自然は素晴らしい。感じ取る撮影者の感覚の素晴らしさを感じました。
- ▶甲乙つけがたいです。

活動報告-2 景観先進都市視察 中之条町

景観サポーターは毎年の恒例となっている「景観先進都市視察」を県内の中之条町で行うことになり、9月29日に実施されました。

中之条町ではビエンナーレの運営の行政の関わり方、及び重要伝統的建造物群保存地区に指定されている赤岩地区を見学・研修を行いました。

何れもご担当者の情熱的なプレゼンとガイドを拝聴し有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今後の活動の参考にしたいと思います。



中之条町観光商工課
中沢係長



保存活性化委員会篠原会長
他ガイドの皆さん

中之条町のまちづくり視察記「独創性で一步リード」

中之条ビエンナーレは知名度が高くその実像を知りたく思っていました。今回、中之条町への視察研修で、「観光地域づくり係」の中沢氏から、「中之条ビエンナーレ」という冊子等を使って、ビエンナーレの始まりから現在までの活動の説明を受けました。

雄大な自然をバックにした「中之条ガーデンズ」(植物園)も、まち興しの一環として整備中との事で、説明会はその施設内で行われました。

冊子には、「少子高齢化、過疎化が進行する人口1万7千人弱の典型的な中山間地の町」と紹介されています。

独創性を発揮するアーティストが活動できる町というコンセプトの町づくりが成功して、町が活性化していると感じました。ビエンナーレの無い年に対応した、イベントの常設化に対しては、ビエンナーレを「観光地域づくり」事業の中で総合的に扱い、別のイベントとの連携も模索中との説明がありました。

今後は、ビエンナーレの更なる展開も期待できそうです。(重田)



初めての景観先進都市視察

8月31日付けで景観サポーターの登録認定を頂き、今回の先進都市視察が初参加の事業となりました。

中之条ビエンナーレについて、町観光商工課の中沢係長より説明を受け、地域住民と行政に携わる人の郷土に対する愛情、地域を活性化しようとする情熱がひしひしと感じられました。中之条ビエンナーレの第一目標は多くの観光客を集客することではありますが、アーティストが恵まれた自然環境の基に地域住民との交流を深め、芸術の町として中之条町を全国に発信していくことが、活力ある町を維持していくうえで重要であると伺いました。



赤岩重要伝統的建造物群保存地区の視察におかれても、保存活性化員会会長篠原様から、集落の景観を守っていくためには、地域住民の強制的ではない地区への愛情による意識付けが一番大事との説明を受けました。これはどこの地域の景観保全にも共通することであると、再認識させられました。

(大川)

中之条ガーデンズ・ビエンナーレ・赤岩集落へ

猛暑が過ぎ、秋冷の9月29日吾妻郡中之条町へ。

あいにくの小雨模様の中、バスは一路中之条ガーデンズへ到着。初回から欠かさずビエンナーレを訪れた私だが、花木と薬草がテーマの公園は初めてでした。

途中の車窓では、リンゴが色づき高地へ来た実感。町観光課中沢様から、第7回を来年に迎えるビエンナーレの歴史や抱負、苦労話と普段知り得ないお話を聞く。若者の流出と超高齢化に悩む町だが、このイベントを重ねる事で「中之条ビエンナーレ」の名を全国へ広め、観光客はもちろん色々な分野の芸術家や関係者の移住も年々増加。嬉しい副産でしょう。

午後は、六合赤岩の重要伝統的建造物群保存地区。この集落の住民は120名弱で高齢化率が非常に高い。しかし、それゆえ「自分達のむら」に対する愛情が強く意思統一も図られている。そこに住む皆が「故郷を住み良く綺麗にしたい」との気持ちを強く感じられた。残念であった事は土壁造3階建の「長英の隠れ家」の当主が転居した事でした。(佐藤)



赤岩集落を歩く

平成30年6月3日に訪問し今回訪れましたが、その時より一例として「湯本家」の改築が進んでいましたので驚きました。重要伝統的建造物群保存地区に指定されている事が、こんなにも住民の総意を動かして改善されていくのが分かりました。住民と



行政と一緒に取り組み、文化財をしっかりと守り、活用していかないとうまく進まないのと、それをどのように活用していくのかが、今は大事です。土産屋さんのまちでは長続きしない。それも画一的に進めては駄目で、修理の仕方も同様だろう。風土、養蚕農家の景観に誇りをもって、頑張っていく。基本的にみんながやっていく事が行政の方も含めて大事である。その為にも議員の方々の後押し応援も必要になります。大変有意義なまち歩きになりました。

(七條)

活動報告-3 景観まちあるき

晴天に恵まれた10月21日(日)に第4回目の「景観まちあるき」が実施されました。

今回は「田島弥平旧宅」が世界遺産に登録されて6年目を迎える境島村を街歩き地域の地域に選定して準備を進めてきました。

21名の市民の方々が応募され賑やかな「まちあるき」となりました。



見学場所の概要説明

	見学場所	概要説明
①	田島弥平旧宅案内所	世界遺産の指定と同時に開設された案内所でしたが、境島小学校が2016年3月に閉校となったことにより、その施設を利用して2108年9月にリニューアルオープンしたものです。
②	金井烏洲と一族の墓	金井家は代々文人を排出し、墓には烏洲の父の万古（俳人）、兄の莎邨（詩人）、弟の研香（南画家）ら一族の墓があります。（群馬県指定史跡）
③	県境の印	利根川を境にした県境はいたる所に飛び地が発生しています。さらに県境は入り組んでおり、一部は個人の所有地に県境があります。
④	集落遠望	島村を代表する、近代養蚕・蚕種農家建築物群といえます。総二階建ての大きな建物で、切り妻屋根の大きさには圧倒されます。清涼育の蚕の飼育には欠かす事のできない通風換気用櫓が独特の景観を生み出しています。櫓の形式は、3連や総櫓などがあります。
⑤	石堀とかしぐねのある風景	冬の強いからっ風から屋敷を守る為の「屋敷林」で、島村は特に利根川からの川風が冷たく厳しかった事が容易に想像出来ます。この路地は、櫓ぐねと共に私達の原風景の中にある故郷の景観を感じさせる、非日常の空間でしょう。足元の石積みは、江戸時代の天明3年(1783)7月の浅間山の大噴火の泥流が利根川を下ったものです。
⑥	屋号： ^{しんせいかん} 進成館 田島乙三郎旧宅 (田島善一様方)	幕末築の田島武平の本家屋号：「あぶらや」の家を明治41年に曳家する。蚕種業は三代目の乙三郎より営み、販路は秩父地域や山梨であった。当代善一は建物公開を率先して総櫓の見学料無料で階段の補強をして「おもてなし」をしています。
⑦	世界遺産 遠山近水 村舎・桑柘園 田島弥平旧宅 (田島英雄様方)	田島弥平旧宅は、近代養蚕法「清涼育（せいりょういく）」の開発と、ヤグラ（越屋根、天窗ともいう）付き総二階建ての近代養蚕農家建築の原点となった建物です。伊勢崎市境島村地区は、江戸時代中期から蚕種（さんしゅ＝カイコの卵）製造の盛んな地域で、田島弥平家も有力な蚕種製造農家でした。
⑧	顕彰碑	この碑によると、弥平は通称で、名は邦寧（くにやす）、字は子寧、号を南畬と言ひ、邦寧には、豊で安心な国、南畬には利根川の南に新しく開墾した畑の意味があります。弥平が開拓したのは近代的な蚕種業で、南畬田島翁と謙遜して名乗る中に、産業立国の基礎を築いた父に対する娘民（たみ）の尊敬の気持ちが滲み出ています。
⑨	境島村おもてなし広場	2014年8月24日、伊勢崎市企画調整課の要請により「島村蚕のふるさと会」として発足しました。世界遺産田島弥平旧宅及び周辺の蚕種養蚕家屋群の見学に来られた方への「おもてなし」と地元の発展のために市と連携し活動しています。
⑩	利根川の眺望と 島村の俯瞰	現在の利根川の堤防は、明治末の大洪水による甚大な被害を契機に築堤されたものです。5キロメートルに及び村を横断する直線の堤防は、島村の歴史を伝えるとともに、島村を特徴づける新たな風景となりました。この堤を視点場とした利根川、蚕種製造民家群、耕作地、赤城山の眺めは、貴重な島村の景観資源となっています。



① 田島弥平旧宅案内所
 新しくなった「田島弥平旧宅案内所」
 で出発前の概要説明に聞き入る参加
 の皆さん



② 金井烏洲と一族の墓
 「金井烏洲と一族の墓」
 ご子孫の金井義明さんから金井家の
 歴史と共に墓標の説明を聞きました。



③ 県境の印
 「県境の印」
 若手新人サポーターと地元参加者の
 掛け合いが面白かったです



④ 集落遠望
 県境を越え埼玉県側にわたり北の方
 向を観ると島村の代表的養蚕農家が
 眺望出来ました。



⑤ 石塀とかしぐねの
 ある風景
 景観サポーターの熱のこもった説明
 に聞き入る参加者の皆さんでした。



⑥ 進成館
 「進成館」は建物内部を公開して頂
 き、2階の蚕種生産設備や資料を見
 学出来ました。



⑦ 田島弥平旧宅

世界遺産「田島弥平旧宅」ではガイドの説明で蚕種生産の歴史を聞きました。



⑧ 顕彰碑

世界遺産「田島弥平旧宅」ではガイドの説明で蚕種生産の歴史を聞きました。



⑨ 境島村おもてなし広場

「おもてなし広場」では地元の皆さんからお茶とお菓子を頂き、つかの間の休憩でした。



⑩ 利根川の眺望と
島村の俯瞰

最後は利根川の堤防です。北側に赤城山、南側には蚕種製造建築群を俯瞰出来ました。

ご意見とご感想①

(順不同、原文のまま)

- ・ 熱心に説明して頂いた
- ・ 金井さんのお話がよかった
- ・ 田島弥平宅じっくり見学したかったです
- ・ 熱心な説明して頂きありがとうございました。2ヶ所のビューポイントが印象に残りました。
- ・ すばらしい景観を更に広く PR していくためにも今後も季節を変えて（季節毎に）実施してください。島村教会やコース内で田島林平旧宅の庭が見たかったです。
- ・ 進成館を見学出来て良かったです。すごくこわかったのですが、一生忘れません。
- ・ 天候に恵まれ楽しく半日を過ごせました。何回も訪問させてもらいましたが、そのたびに新しい発見がありまた来たいと思います。ありがとうございました。
- ・ 島村の事を分かりやすく説明していただきとても楽しかったです。
- ・ 県境の印を見ることができて、おもしろかったです。

ご意見とご感想②

(順不同、原文のまま)

- ・ 景観サポーターの気持ちのこもった説明は、とても理解に役立ちました。ありがとうございました。
- ・ 島村について良く説明頂き身近に感じる事が出来ました。又、イベントが有りましたら宣伝をお願いします。
- ・ 説明を聞かないと解らない所等細かく説明して頂き、とても良かった。
- ・ ガイドしていただいたのでよく分かりました。
- ・ 島村の歴史又養蚕について沢山学びました。又、天気も良く、楽しい景観まちあるき楽しみました。
- ・ 進成館さんの内部案内がきけて良かったです。実際にやぐらに登ってみても風通しが良かったのが印象的でした。こんなに素晴らしい景観をいつまでも残して行って欲しいです。ありがとうございました。
- ・ 浅間の石がきは皆さんの家であったのですか？

参加された皆さんには概ね良い評価を頂きました。

これらの貴重なご意見を今後の活動に生かしていきたいと思えます。また、皆さんのご好評を糧にさらなる活動の充実を目指していきたいと思えます。

活動報告-4 景観講演会



今号発行日である平成31年1月22日は景観まちづくり講演会の開催日でもあります。少しだけ講演について紹介します。

講師の前橋工科大学教授・工学博士の小林 享(こばやし とおる)氏は伊勢崎市や前橋市、群馬県の景観審議会会長などを長きにわたって務められ、景観やまちづくりについて深い見識と専門知識をもっておられる方です。

著書には『移ろいの風景論-五感・ことば・天気-』(土木学会出版文化賞受賞)他、多数があり、講演内容は近著『余暇の風景学を考える-美学的時間消費論と川瀬巴水の郷愁-(上巻・下巻)』を題材にした内容で、「風景を味わい、心地よい時を過ごす-余暇の風景学を考える-」と題しまして講演していただきます。

今回の講演会で11回目を向かえる景観サポーター実行委員会主催の景観まちづくり講演会。次回はどうな方に講演していただくのでしょうか。機会がありましたら皆様もぜひお越しください。

景観サポーター情報紙「いせさき美尋」とは？

美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。

景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね(美尋)、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。

発行/伊勢崎市景観サポーター実行委員会

『いせさき美尋』景観サポーター情報紙第11号

平成31年1月22日発行

連絡先 景観サポーター実行委員会事務局

☎ 0270-27-2767

私たちと一緒に活動しませんか？

景観サポーター募集中

景観サポーターとは？

市と協働しながら、景観まちづくり講演会などのイベント開催、景観情報誌の発行、まちづくり先進地の視察など、良好な景観の形成に向けた活動を通じ、広く市民の意識啓発や市民目線による提案を行って本市の景観行政をサポートする市民ボランティアです。



どうやったらなれるの？

申込みは随時受け付けています。

詳しくは、市ホームページか都市計画課・景観係（27-2767）までお問い合わせください。

伊勢崎市の景観重要建造物



▲ 蚕種農家住宅 田島林平旧宅

地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物（建築物及び工作物）の外観が地域の景観上の特徴を有し、地域の景観形成に重要なものを、景観法（平成16年法律第110号）第19条の規定に基づく景観重要建造物に指定しています。

【市ホームページ】

見学が可能な施設もあります。
各施設についての詳細は、市ホームページか都市計画課・景観係（27-2767）までお問い合わせください。



▼ 旧時報鐘楼



▲ 黒羽根内科医院旧館（いせさき明治館）



伊与久雷電神社